

23. 当院で開発した右橈骨アプローチ両側内胸動脈造影用カテーテルの初期成績

山本雅史、氷見寿治、藤本善英
松戸裕治、押田成人、椎名由美
大熊麻衣子 (君津中央)

内胸動脈造影は、同側上肢か鼠径部からの穿刺が多いが、左橈骨動脈をバイパス血管として使用したり、ASOなどで鼠径アプローチが不可能な例もある。そこで、4Fの経右橈骨両側内胸動脈造影用カテーテル開発を試みた。LITAを用いたCABG術後の連続34人を対象に、新形状カテーテル先端の右橈骨シースへの挿入開始からLITA入口部到達までの時間を計測した。造影後はそのままRITAまで引き抜き試験撮影を行った。LITA造影は28人で、RITA造影は全例で成功した。

対側LITA造影不成功例で左橈骨動脈を穿刺した例では、同一カテーテルを使用し全例造影成功。成功例での到達時間は 443 ± 333 秒最頻値は4~6分であった。

24. Evans blue局所投与はステント後再狭窄を著明に予防する

村山太一、吉村将之、志田千穂
藤堂貴彦、寺沢公仁子、志賀 孝
藤森義治、尾世川正明
(成田赤十字)

急性期にステント治療を施行した急性心筋梗塞例においてEvans blueによるステント後再狭窄予防について検討する。

【方法】発症3週間目にEvans blueの冠動脈内局所投与を施行した(Evans blue群100例、対照群85例)。

【結果】6ヵ月後の冠動脈造影においてin stent restenosisはEvans blue群5.1%、対照群25%であった($p < 0.0001$)。in segment restenosisはEvans blue群6.1%、対照群29.8%であった($p < 0.0001$)。

【結論】Evans blue局所投与は急性心筋梗塞後のステント後再狭窄を著明に予防した。

25. 急性心筋梗塞におけるPTCAとstent植込み症例の長期予後に関する検討

北原秀喜、石橋 嶽、宮崎義也
酒井芳昭、松野公紀、浪川 進
鳴海浩也 (千葉県救急医療)

我が国において、急性心筋梗塞に対するPTCAとstent植込みの長期予後の比較に関する報告は少なく、まだ十分な検討がなされていない。1998年3月から1999年7月までに、当院にて急性心筋梗塞に対し再灌流療法を行った118例に関し、PTCAとstent植込みの

349 ± 191 日の予後を前向きに比較検討し、ステント留置術の優位性を佐野らが報告したが、今回我々はそれらの症例に関する長期予後を検討したので報告する。

26. 虚血性心疾患の発症指標としての高感度CRPの有用性についての検討

水間 洋、水口公彦、並木隆雄
(千葉県立東金)

最近、虚血性心疾患発症を非侵襲的に予見する手法として、高感度CRPが注目されている。2001年に Ridkerらによって高感度CRPを用いた虚血性心疾患発症のリスク層別化の報告がなされている。今回われわれは当院における2003年以降のCAG施行患者のうち、高感度CRPを測定した症例に対して、虚血性心疾患との関連について検討したので報告する。

27. primary stent施行急性心筋梗塞症例における再狭窄の予後に与える影響

鳴海浩也、北原秀喜、浪川 進
松野公紀、酒井芳昭、宮崎義也
石橋 嶽 (千葉県救急医療)

当センターにてprimary stentを施行した前下行枝1枝病変の心筋梗塞症例に半年後follow upの冠動脈造影を施行した。QCAにてstentがpatentであった群と再狭窄した群とで左室駆出率、EDVI、regional left ventricular wall motion、リスクファクター(高血圧、高脂血症、糖尿病)を比較し予後(心事故、脳卒中、死亡)に与える影響を考察したので報告する。

28. マルチスライスCTによる冠動脈非石灰化plaques検出の予測因子

浅野美紀、船橋伸禎、寺本清美
小宮山伸之、小室一成 (千大院)

【目的】MSCTを用いて冠動脈非石灰化plaques(NCP)検出の予測因子を検討する。

【対象と方法】連続242例にMSCTによるNCPの検出を行った。

【結果】76例でNCPが検出された。NCPのみを持つ群の高血圧罹患率は、石灰化、NCP両者を持たない群より高く、糖尿病、高脂血症罹患率は両者を持つ群より低かった。50歳未満の女性で検出されなかった。ロジスティック回帰分析でNCP検出に影響を与えたのは男性、高血圧、喫煙であった。結論 複数の冠危険因子、特に高血圧を持つ喫煙男性もしくは50歳以上の女性に対して、MSCTはNCP検出のスクリーニングになりうる。